

地質技術者セミナーに参加して

株式会社建設技術センター 工藤 僚子



この度、令和6年11月8日、9日に開催された第47回地質技術者セミナーに参加させていただきました。これまで同業他社の方々と交流する機会が得られず、緊張と期待が入り混じる初参加となりましたが、普段の業務では減多にない体験ばかりで貴重な2日間を過ごすことが出来ました。

今回のセミナーでは、(株)百様、東北大学中安先生にご協力いただき、宮城県川崎町にてフィールドワークを実施し、地域の地形的特徴について議論しました。また、参加者同士の意見交流会やグループディスカッションといった幅広く知見を得られる機会もいただきました。

初日は(株)百様が運営されている百のやどに集合し、アイスブレイクとして自己紹介を交えた薪割りを実施しました。その後、百のやどの施設紹介を賜り、食とエネルギーの地産地消を目指す取り組みの見学をしました。現地の豊かな自然を存分に活かした活動を行っており、環境問題が懸念されている現代において重要な取り組みであると思い感銘を受けました。また、土壁や木組みを用いた宿泊施設に日本ならではの「和」や温かみを感じました。

フィールドワークでは、百のやどの裏山に登り、文政時代に建てられた祠の成り立ちを地質環境の観点から考えるというものでした。現地は、祠が建てられた文政元年の前後十数年の間に、蔵王山噴火や干ばつが何度も発生している場所でした。祠までの山道の途中には、過去の蔵王山噴火により形成されたと思われる安山岩が突出している箇所がありました。また、裏山の麓周辺には集落があり、河川合流点も近いことから、祠が建てられた裏山は避難場所としての役割を担っていた可能性も考えられました。安全な場所という点に加えて、天災を鎮めるための祈りが届きやすいという信仰的な理由も意見として挙げられました。これまで地質に触れる機会があまりなかった私

にとって、自分と異なる着眼点を持つ他の方々の意見を聞いたことは大変勉強になるとともに刺激も受けました。

意見交流会では、先に述べた薪割りの薪を使ってバーベキューをしながら、多くの方と様々なお話をすることができました。また、東北大学中安先生から、サステナブルな分散型社会実現に向けての取り組みとして講義を賜りました。地方独自の自然や特性を活かし、住民主体の取り組みと科学技術をバランスよく融合させることで、地域社会の発展と環境維持につながると感じました。

2日目のグループディスカッションでは仕事の効率化について意見を交わしました。各々の会社での取り組みについて話し合い、主にIT技術を用いて効率化を図っている企業が多く見受けられました。加えて、電話やメール、チャット等の情報伝達ツールを用途に合わせて使い分けることも挙げられました。また、ツールの活用のみに関わらず、個々のコミュニケーションスキル向上や専門知識の習得も重要であると感じました。

今回のセミナーでは、普段触れることが少ない分野の知見を得ることができました。日々の業務においても、物事をより深く、多角的に捉える視野の広さを持つことを意識し、日々精進してまいります。

最後になりますが、今回このような機会を設けてくださった東北地質調査業協会の皆様に心よりお礼申し上げます。



写真 百のやどの裏山に建てられた祠

中央開発株式会社 八重樫 亮伍



この度、令和6年11月8日（金）から11月9日（土）にかけて開催された第47回地質技術者セミナーに参加させていただきました。

今回のセミナーは、2日間にわたって開催され、宮城県川崎町の百の宿および周辺の里でフィールドワークを行い、地質環境を考察しました。私自身、地質分野の知識がないため、不安でしたが、活発な意見交流やグループディスカッションを通して、自分にはない知見や着眼点を得ることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

セミナー開始後は、自己紹介を兼ねた薪割が行われました。気温が低い中での薪割でしたが、非常に雰囲気がよく、その後に行われたフィールドワークでの活発な議論につながったのではないかと感じます。

フィールドワークでは、2班に分かれ周辺の祠と露頭で現地踏査を行いました。踏査後は、班内で地質環境の考察・検討を行い、大変有意義なものとなりました。地質分野の知識がほとんどなく、発言をする機会は少なくなりましたが、活発な議論に刺激を受けました。今後、地質分野の知識を蓄えていければと思います。

フィールドワーク後は、懇談会と（株）百についてのプレゼンテーションが行われ、（株）百の成り立ちや活動を紹介していただき、他の参加者の方と親睦を深めることができました。

また、2日目に行われたグループディスカッションでは、「新技術や業務の効率化」と「調査対象によってはの注意点」について議論が行われました。1日目のフィールドワーク同様、積極的な意見交

流・議論が行われ、2つの議題に共通してコミュニケーションが留意点の1つとして挙げられ、コミュニケーションが重要であることを再認識いたしました。技術者として専門的な技術や知識を蓄えることはもちろん大切ですが、発注者の方や協力会社の方と意思疎通を図ることは重要であり、密な情報共有を行うことや伝えたい情報を正しく伝えることで円滑に調査を進めることができるのではないかと考えます。密なコミュニケーションや正確な情報共有を行うことができるように知識を蓄え、今後の業務に勤めたいと思います。

最後になりますが、貴重な機会を設けてくださった東北地質調査業協会の皆様並びに関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



写真1 フィールドワーク状況①



写真2 フィールドワーク状況②

株式会社高田地研 石澤 瑞穂



一般的に講習会と言うと、座学や現地研修といった形を想像していたが、今回は薪割りという普段あまり経験しない形で研修が始まった。宮城方面から多くの参加者が集まり、主に山形県内で業務を行っている私とその場に馴染めるかどうか不安もあったが、一生懸命薪を割っているうちに自然と自分のことを話せるようになった。

1日目に訪れた「百の家」では、裏山の杉林から得た薪を使った薪ストーブや、太陽光で温めた温水を利用したヒーターなど、エネルギーの自給自足を模索している様子が新鮮だった。環境負荷を減らすための話題はよく聞くが、実際に形にするには高いハードルがあると感じていた。しかしここでは薪ストーブの火力や太陽光、有機物の分解によって生まれるガスなど、身近なものを使ったわかりやすい取り組みが多く、持続可能な生活への印象が変わった。

持続可能性という観点から言えば、地質土質調査に関する仕事全般もその影響を受けると予想される。「百の家」は建設時に災害の危険性が指摘され建設地を変更している。そういった経緯から、今回のフィールドワークは元々の建設予定地周辺で行われた。場所は現在の施設から国道沿いに東に約250メートル離れたところにあり、住民から土砂崩れの危険が指摘されていた。私の参加したグループは背後の山肌に露出した岩盤を発見し、この岩盤に沿って集水地形であるために、その影響で土砂崩れが発生する可能性があると考えた。

グループのメンバーが話すのを見て、私は普段から地形を軽視していること

に気づいた。掘ってみないとわからない部分もあるが、調査地よりも仕事の手順やデータを追うことに終始して、調査の筋道が立てられていなかったのではないかと。地表踏査を行う際には、他の人の意見を参考にするだけでなく、自分の目で見ただけを基に調査計画を立てることが大切だと感じた。

2日目のグループワークでは、「地すべり調査におけるボーリングの留意点」について議論した。調査方法について、過去の調査事例や年代ごとの空中写真を使って問題点を洗い出したり、現地での情報（住民やオペレーターの意見を含む）と照らし合わせて検証したり、採取したコアを乱さないように対策を講じる等の意見が出された。これまでボーリングコアの品質を保つための工夫を聞く機会が少なかったため、貴重な機会となった。目先のデータを鵜呑みにせず、自分でもできる工夫を取り入れていこうと思う。

今回の研修を通じて、調査地の情報を身体で感じることで、調査結果が妥当なものになるように工夫することを学んだ。ここで得た成果を発注者や地域住民に還元できるよう努力していきたい。



株式会社三本杉ジオテック 吉田 隆徳



令和6年11月8日より二日間の日程で開催された地質技術者セミナーに参加させていただきました。一日目は現地研修及び意見交流会、二日目は話題提供及びグループディスカッションという日程で行われ、私と同じような業界若手技術者である参加者の皆様と交流でき、大変貴重な経験ができました。

・現地研修

株式会社百（MoMo Inc）様ご協力のもと、2グループにわかれて、始めにアイスブレイクならぬ薪割りを行いました。慣れない作業をしながらそれぞれ自己紹介をしたおかげで、初対面での緊張感がほぐれ、その後の活動でも適度で良い時間を過ごせたと思います。

地産地消を目指しベーシックインフラに取り組みながら運営されている「百のやど」の紹介から、その歴史を踏まえて、フィールドワークでは百の宿周辺を踏査しました。地形や地質を確認し意見を交えながらの研修は初めてで、他社で業務が違う方の見解を聞いたことはとても有意義な体験でした。

・意見交流会

意見交流会では日頃の業務からプライベートな話まで、普段話す機会のない他社の参加者と話すことができ、とても楽しい時間でした。

プレゼンテーションの中安先生の「百のやど」活動紹介の中で、自然を体験し“薪”と“米”から始めて多くの仲間をまきこもうとする「まきこめ」の活動は、自然に身近で環境の保全に係わりの

ある地質調査に深く共通するものがあり、業界や会社が環境保護に取り組む社会で、どう対応していくか考えさせられました。

・話題提供

講師に中央開発(株)から横市先生がお越しくださり、話題提供をいただきました。「調査の匠」の認定を受け、様々な業務に携わり、現場のオペレーターから現場管理までされた方の貴重な講話を拝聴できました。お話の中では特に“三現主義”が印象に残りました。“現地”現地に出向き状況を知る、“現物”現物を見て状態を知る、“現人”関係している人々と向き合い状態を知るは、どんな現場でも共有できることだと感じました。

・グループディスカッション

2つのグループに分かれてそれぞれの意見交換ができました。私達のグループでは業務の効率化、生産性向上を題材に話し合いました。実施している社内資格、利用するツールなど他社が行っている活動を知ることができ、また若手技術者の様々な意見やベテラン技術者の経験談も聞くことができ、とても勉強になり充実した時間でした。

・最後に

委員の方々には丁寧に対応いただき、明るくよい雰囲気ですべて参加することができました。セミナーでこのような機会を設けていただいた東北地質調査業協会様、関係者様、また参加者の皆様へ感謝申し上げます。